

木材加工法の授業を初めて行った後の考察

技術教育・森慎之助

1. 授業の概観

本授業は，技術教育の免許を取得するために必要な必修教科である。1 回生後学期に開講している。ここでは，木材に関する基礎知識と加工するための種々の方法などの教授を主体とし，その中に実習を含めて講義を行う内容である。教科書に掲載されている材料や工作機械の図を見て，知識に換えるのではなく，できる限り実際の工具，材料，機械に触れさせる体験を取り入れたことで，より深い知識の蓄積できると思われる。

2. 授業評価法

今回，木材加工法 I（座学）を担当するのは初めてである。これまで，木材加工の実習は 15 年近く行っていた。加工学なので金属材料を木材に変えて講義を組み立てればよいと考えた。やはり，準備期間の短さと本で学習した知識は乏しく中身がかなり薄いものとなり，学生には迷惑をかけてしまった。

評価はアンケート形式で行った。評価のための項目は授業法，教育媒体，難易度，達成度，満足度，科目独自などからなる 7 項目で構成し，5 段階評価で行った。表 1 にアンケート質問内容を示す。受講生の内訳は技術専修 3 名，情報教育コース 3 名の計 6 名である。

表 1 アンケート質問項目

設問番号	設問内容
(1)	教官の話し方や説明により，授業内容（概念，理論など）が，わかりやすく講義された。
(2)	授業の内容・レベルはあなたにとって適切だった。
(3)	授業を受講した目的が達成できた。
(4)	本授業により新しい知識，概念，技能を身につけることができた。
(5)	木材に対して面白さを感じてきた。
(6)	実際に木材を加工して製品を作製してみたいと思う。
(7)	来年度も技術教育で開講されている授業科目を履修したい。

情報教育コースの学生に受講理由を尋ねたてみると 3 名とも「面白そうだったから」であり，技術の教員免許は取得するつもりはないとのことであった。

3. 授業評価結果

回答結果を図 1 に示す。グラフ内の数値は人数を示す。設問(2)の授業レベルは全員が

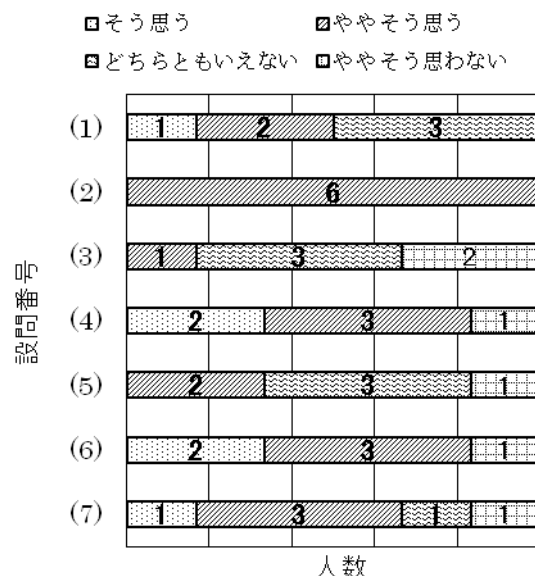


図 1 回答結果

「やや難しい」の回答しており，木材加工の学習内容をもう少し理解しやすいように工夫するべきだと感じた。この工夫のできなかったことが，教員の知識の理解不足であると思う。その中で，(4)の設問で 5 名の受講生が肯定的に回答しており，木材加工の授業内容の新規性を感じたものと思われる。しかし，試験の結果から理解の度合いは全体的に低いものとなり，成績内容として，優：2 名，可：4 名であった。設問(5)と(6)の回答から，木材と加工に関して興味・関心は高まるようである。木材は加工しやすい材料であり，金属材料に比べるとかなり身近に感じているようである。最後に，設問(7)では技術の開講科目には関心を持っているようであり，1 回生で開講する授業は 2 回生以降の履修計画では影響がありそうである。

4. まとめ

初めて持つ授業であり，かなり不安があったが，木材は学生にとっては身近なものであるので早々と興味・関心を持ってくれたことがスムーズな授業の進行につながった。できるだけ早くこの授業を自分のモノにしてわかりやすい授業ができるように努めたい。